

# 産業建設委員会

# 行政視察報告

5月15日から17日にかけて、委員6名、執行部2名、事務局随員1名で、北海道深川市、美幌市、千歳市を視察してまいりました。

## ■北海道深川市

### 【農業振興計画に基づく取り組みに ついて】

道央に位置する深川市は、農業を基幹産業と位置付けており、水稲や畜産が非常に盛んであるほか、そはは全国第2位の作付面積・収穫量を誇っています

現在、深川市では、農業振興計画や

食育推進基本計画のもと、農業所得の十分な確保や多様な担い手の育成・確保、地元農畜産物の学校給食等への積極的な活用を図っています。



北海道深川市

農産物のブランド化については、特A評価を受けるブランド米「ゆめぴりか」や、キュウリやリンゴといった野菜・果樹のPR活動を市内外で継続して展開していました。

また、農業従事者の担い手不足対策として、市と地元JA、市90%出資の(株)深川振興公社で構成する(株)深川未来

ファームにおいて、市内での就農希望者の募集、農業体験や研修先のマッチング、技術指導等を行い、5年以内の独立就農を支援しているとのことでした。

なお、(株)深川未来ファームは、市内農家の農作業受託事業や遊休農地防止のための受託管理事業、ふかがわポークの放牧養豚とそれを活用した加工品の製造販売も手掛け、市は年間約3,900万円の支援を行っているとのことでした。

## ■北海道美幌市

### 【農業イノベーションに基づく取り組みに ついて】

美幌市は水稲や小麦はもとより、野菜や果樹の生産にも力を入れています。中でも、果樹「ハスカップ」のブランド力の向上に注力していました。

ハスカップは主に加工用として用いられ、これまで

ロールケーキや果汁液、ワイン、ゼリーなど数多くの加工商品が開発されていますが、市では農

工商連携等推進補助金制度を設けて支援していました。



北海道美幌市

転作用作物として市内に広まったハスカップの生産量は、最盛期の平成19年には56トンでしたが、平成30年には約27トンにまで落ち込んでいるとのことでした。

この原因として、実が非常に柔らかく、収穫は全て手作業のため、新規就農者が集まりにくいこと、農業従事者の高齢化等を挙げていました。

市では、JA、企業等のこれまでの努力によりブランド化が図られたハスカップの新商品開発の推進のため、引き続き研究機関や関係団体と連携し、苗木の育成指導や就農支援を行うことで、生産量の増加を図っていくとのことでした。

## ■北海道千歳市

### 【観光振興について】

千歳市は、年間約2,330万人の利用客を誇る新千歳空港を抱え、また、航空自衛隊基地が併設されているため、基地の街としても知られています。

現在、新千歳空港はLCCの就航等により需要が格段に増え、需要に応える形でホテルの新築・増床がなされ、インバウンドの宿泊客数は年間30%ずつ増えているとのことでした。

また、11年連続水質日本一の支笏湖及びその周辺は、同市にとって欠かせない観光資源であり、カヌーやスキュー

ーバダイビング、トレッキングツアーなどの自然を生かした体験が可能で、観光客には大きな魅力と感じていただいているとのことでした。

市としては、支笏湖周辺の温泉旅館への配湯のため、温泉掘削、ポンプによる汲み上げ、源泉管理、分湯ま

でを行い、各温泉旅館からは全体で年間約150万円程度の分湯料を徴収しているものの、維持管理費に400万円以上かかることから、収支はマイナスであるとのことでした。

しかしながら、温泉は市にとって大きな観光資源の一つとして捉え、引き続き支援を行っていくとのことでした。そのほかにも、支笏湖「チップ」(ヒメマス)のブランド化や、マラソンとピクニックの性格を併せ持つ「マラニック」などスポーツを観光と結びつけた事業展開を行っていました。

## ■視察を終えて

今回の視察では、農産物のブランド化には農業従事者及び生産量の確保が、観光振興には地域資源の活用及び情報発信が重要であることを再認識しました。

これらのことを今後の委員会活動に役立てたいと思います。



北海道千歳市